

【中学校・外国語（英語）】

平成30年度指導の重点

1 指導計画及び評価計画の工夫・改善

- 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能の総合的な育成を目指し、3学年間を見通した目標の設定及び指導計画・評価計画の工夫・改善を図り、指導と評価の一体化に努める。
 - ・学習到達目標を具体的に設定した「CAN-DOリスト」に基づいた指導と評価の工夫・改善を図るとともに、生徒の実態に合わせて到達目標の見直しを行なう。
 - ・積極的にコミュニケーションを図り、継続しようとする態度の育成を目指して系統立てた指導の工夫・改善を図る。また、平易なものから難しいものへと段階的に、繰り返し指導することで、基礎的・基本的事項の定着に努める。
 - ・学習活動や言語活動のねらい・内容を踏まえた、より具体的な評価規準に基づき、評価を実施し、その結果を授業改善に生かす。
- 教材は、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成するため、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げる。

2 指導方法及び評価方法の工夫・改善

- 生徒が主体的に取り組める授業を目指し、個に応じた指導や学習形態の工夫・改善に努める。
 - ・生徒の学習状況を踏まえ、学習活動を互いに関連付けつつ、生徒が活発に活動に取り組めるように多様な場面を設定・実施することを通して、自己表現力の育成に努める。
 - ・学習活動や言語活動のねらい・内容を踏まえて評価場面や評価手順などの工夫・改善を図るとともに、評価結果を生徒の学習や教師の指導に生かす。
- 外国語に対する興味・関心を高めるとともに国際理解に努める。
 - ・ネイティブ・スピーカーなどの協力を得たり、情報機器などを有効活用したりすることで指導のさらなる充実を図り、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていく資質・能力の育成に努める。

3 指導における留意点

- 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を統合的に活用した言語活動の充実を図り、次のようなコミュニケーション能力を育成する。
 - ・自らの考えなどを相手に伝えるための発信力
 - ・コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力
 - ・内容的にまとまりのある文章を書く力 など
- 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導する。
- 指導計画の作成に当たり、特に第1学年においては、地域の小学校における外国語活動の指導内容や児童の実態などを反映するよう努める。
- 道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、道徳の内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をする。

参考

- ◆ 県教育委員会ホームページ
 - 評価資料集Ⅳ－評価活動の参考資料として－中学校
<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/606564.pdf>
 - 教育課程編成の指針（幼稚園，小学校，中学校）中学校外国語（平成22年作成）
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6668/index.html>
 - 教育課程編成の指針（幼稚園，小学校，中学校）中学校外国語（平成30年作成）
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyouikukateisisinn.html>
- ◆ 文部科学省ホームページ
 - 移行措置関連資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387780.htm